

教室掲示  
お願いします

# SSH 通信

第9号  
平成31年1月25日発行  
編集：Ⅱ年5組

## SSH 韓国訪日研修

1月15日(火)～16日(水)に、韓国・天安中央高等学校から生徒35名・教員5名を迎えてSSH韓国訪日研修が実施されました。今回迎えた35名は夏の韓国海外研修で一緒に活動した生徒です。両国の生徒で4名程度のチームをつくり、2つの共同授業を受けたり、昼休みにスポーツを楽しんだりしました。また、15日には韓国生徒は本校生徒の家庭でホームステイを行い、交流を深めました。

### SSH韓国訪日研修の主な日程

#### 【1日目】

- 8:40 開講式
- 10:00 科学共同授業①
- 13:30 科学共同授業②
- 16:00 ホームステイセレモニー

#### 【2日目】

- 8:30 ポスター発表準備
- 9:30 ポスター発表
- 13:10 ポスター発表講評
- 13:20 閉講式

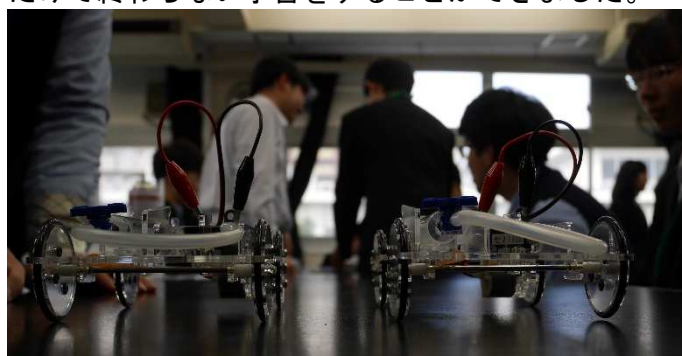
### 開講式

開講式では、先生の挨拶、生徒代表スピーチ、記念品の贈呈、学校紹介などが和やかな雰囲気で行われました。天安中央高校の生徒による学校紹介はデザインも工夫されていておもしろく感動しました。久しぶりの再会だったので、はじめはみんな少し緊張していましたが、開講式の後の休み時間には打ちとけて話をすることができました。



### 科学共同授業(化学)

初日に行われた化学の授業では、ホンダの技術者の方々をお招きし、水素エネルギーについての講義をしていただきました。水素発電についての基礎知識から実際の社会での活用事例まで幅広くお話をいただき、未来への再生可能エネルギーの可能性について知ることができました。特に、水素エネルギーは新たなエネルギー源としてよりも、エネルギーの貯蓄を可能にする技術としての意義が大きいというお話はとても印象的でした。ホンダの開発した水素燃料電池車「クラリティー」の乗車体験もあり、知識だけで終わらない学習をすることができました。



### 科学共同授業(生物)

生物の授業では魚の逃避行動について実験しました。ところで、水面に物が落ちる時、魚は目でそれを察知して逃げているのでしょうか、それとも落ちた後の水流に反応して逃げているのでしょうか。私達はまずこのいずれかから仮説を立てました。その後、実際にビー玉を落とし、様子をビデオで撮影する事で結論を出しました。授業では研究の手法に基づき科学的な根拠を大切にするため、映像を「トラッカー」というソフトで解析しましたが、この作業で手間取った人が多かったようです。最後に得られた情

報をもとに考察し、発表しました。考察の時間は限られていましたが、どのグループも結論に達することができたようで良かったと思います。言語の壁はありましたが、この授業で韓国の方とよく協力して実験に取り組むことができました。異国の人と共同作業をする機会はあまり無いので、このような貴重な経験ができたことを嬉しく思います。



### ホームステイ

放課後、パートナーとともに広島市の街を散策しました。ショッピングやカラオケ、スケートを楽しんだり温泉に行ったりした人もいます。夕食では、お好み焼きやうどんなど日本の食文化を楽しみました。なかなか言葉が伝わらないこともありましたが、双方が「伝えよう」、「分かれよう」とする気持ちをもって、ともに楽しい時間を過ごすことができました。文化の違いに驚かされることも多くあり、理解し受けとめることの大切さを学びました。一緒に過ごした時間は忘れられない思い出になりました。



### ポスター発表

韓国訪日研修の2日目のメインイベントであるポスターセッションでは、日韓両国から9本ずつのポスターについて、プレゼンテーションと質疑応答を行いました。両国とも非常に興味深い研究をしており、英語での討論も活発に行われていました。私が印象に残った研究は簡易的な大気圏の気象観測を行うラジオゾンデのコストと装置の質量削減についてで、内容が興味深いだけでなく、実験においてパソコンで気圧センサー等を正しく動作させるためのプログラムを制作し、大空に装置を飛ばすということをします。私自身の興味がある分野ということもありますが、空に飛ばすということでロマン満載の研究だと思いました。本校生徒にとっては、初めての英語での研究発表となりましたが、天安中央高等学校の先生方からアドバイスをもらっている場面も多くみられました。これからさらに研究と英語での発表技術を向上させたいと思いました。



### 閉講式

一緒に過ごす時間は本当にあっという間で気がつくともう閉講式でした。日本と韓国それぞれの代表生徒によるスピーチでは「これで私たちの短い共同研修は終わるけど、今までの交流で育んだ友情はフォーエバーである!」ということをお互いに確認し、大きな拍手がわき起こりました。その後、記念撮影をしながら別れを惜しみ、韓国生徒が乗ったバスが出発するのを見送りました。またいつか再会できる日を楽しみにしています。

